

派遣先所属 福島県商工労働部雇用労政課

氏 名 沓澤 俊夫 (くつざわ としお) 松澤 一寛 (まつざわ かずひろ)

派遣期間 平成27年4月1日～平成29年3月31日 平成28年4月1日～平成29年3月31日

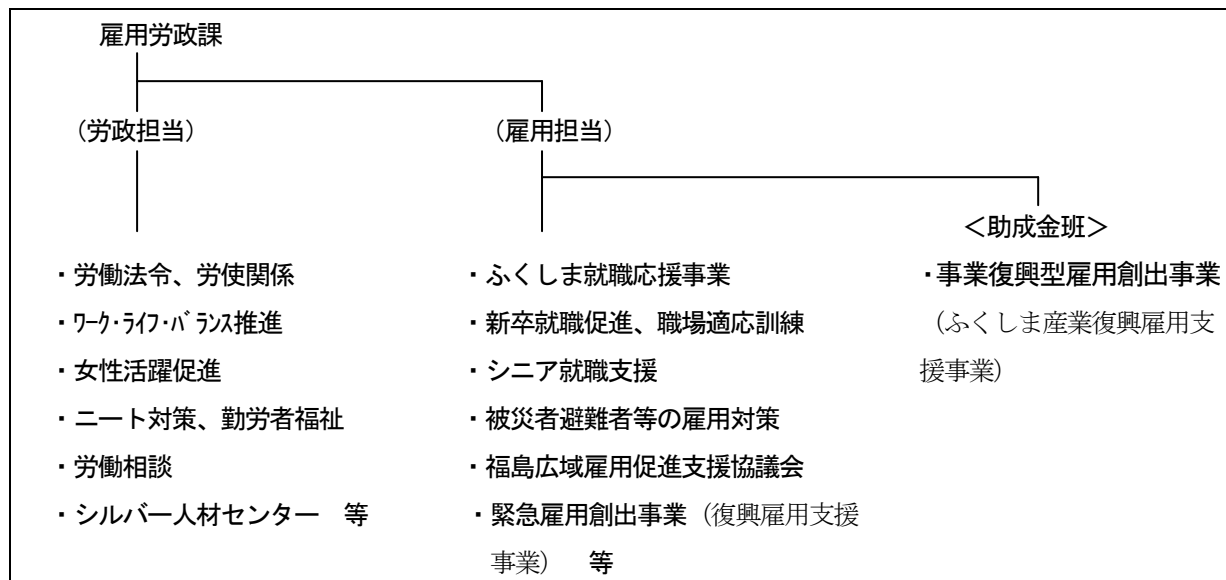
## 1 派遣業務の内容、現況

派遣先である雇用労政課は労政担当、雇用担当、助成金班で構成されており、平成28年10月1日現在で臨時職員を含めて23名が在籍しています。

このうち5名が自治法派遣職員で、派遣元は、栃木県、東京都、奈良県が各1名、埼玉県が2名となっており、いずれも厚生労働省の緊急雇用創出事業の各種業務に携わっています。ワーク・ライフ・バランスの推進や女性の活躍促進を始め、県内企業への就職応援、被災者・避難者の雇用対策等、幅広い課の事務の中で、依然として復興関連の業務量が相当の割合を占める状況が続いています。

松澤の属する雇用担当は、求職者に求人情報を案内する就職応援センターの運営や、緊急雇用創出事業の管理・運営、雇用対策に関する委託事業等を担当しております。助成金班を除く雇用担当は8人（福島県職員5、派遣職員2、臨時職員1）です。

また、沓澤の属する助成金班は、緊急雇用創出事業の中の一つである事業復興型雇用創出事業に携わる、雇用担当内の専任チームで6人（福島県職員2、派遣職員3、臨時職員1）です。



\*ウォリバーマーク：ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）に積極的に取り組む企業を認証する制度において、認証取得企業が使用できるマークです。商工労働部内ではクールビズの間、多くの職員がこのマーク入りのポロシャツを着て仕事をしていました。

### (1) 松澤の担当する業務

現在5つの委託事業について担当しており、それぞれの名称は「絆づくり応援事業」「ふくしま人材確保支援事業」「県内企業採用活動支援事業」「若年者県内就職支援事業」「業界研究セミナー動画配信事業」です。

#### ア 絆づくり応援事業

私が受け持っている事業の中では最大の予算規模をもつ事業です。平成23年にスタートし、全額国費である緊急雇用創出事業の一環として実施しています。原発事故後、仕事を探している方に対して働き先(各市町村等)を紹介します。この事業最大の特徴は市町村からの要望(〇〇という部署・業務に何人欲しい等)を県で取りまとめ、委託先である人材派遣会社を通して市町村に配属することです。



(仮設周辺の環境整備業務)



(放射線量測定機器)

これによって、原発事故後に業務量が増大した市町村が、選考・採用・雇用後の労務管理等の業務から開放されることとなります。現在も150名以上の方がこの事業で雇用され、仕事をしています。現在の問題点は、事業開始から5年以上が経過し、国の緊急雇用創出事業の制度要件とギャップが生じ始めている、という点です。

#### イ ふくしま人材確保支援事業

ア 絆づくり応援事業と同じく、緊急雇用創出事業の一環として実施しています。こちらは市町村ではなく一般企業に「実習生」という形で派遣され、仕事をしながら正社員採用に向けて経験を積む、という事業です。委託先企業が実習希望者と実習先企業のマッチングや社外研修を行うことで、仕事をしていく中での不満の軽減や途中退社等のリスクを減らしていきます。現在の課題は、絆づくり応援事業と同様、国の厳しい制度要件をいかにクリアしていくか、という点です。



(実習生に対する OFF-JT の様子)

#### ウ 県内企業採用活動支援事業

この事業は採用活動に苦戦している企業や今年度採用された社員に対し、研修会や巡回相談、セミナー等を実施し、県内企業の採用活動活性化や社員の職場定着率の向上を目指す事業です。

福島県の有効求人倍率は高く、特に浜通りに所在する企業の人手不足が深刻です。そのため、企業の採用活動の強化や離職防止に係る取り組みが必要であると考えています。



(新入社員の研修風景)

#### エ 若年者県内就職支援事業

主に、学生（大学・短大・専門学校）を対象とした県内企業の紹介及び就職支援を行うことで、県内の就職状況の改善や、県外への若者流出を食い止め、福島県へのU I Jターン（通称Fターン）を推進する事業です。

#### オ 業界研究セミナー動画配信事業

人材広告企業内ホームページで、県内企業を紹介する動画を配信します。説明会やセミナーよりも気軽に、繰り返し見ることができ、またチャットによるリアルタイムのやりとりも可能です。首都圏企業より知名度で劣る県内企業の紹介を全国規模で行い、学生がFターンを考えるきっかけをつくる事業です。

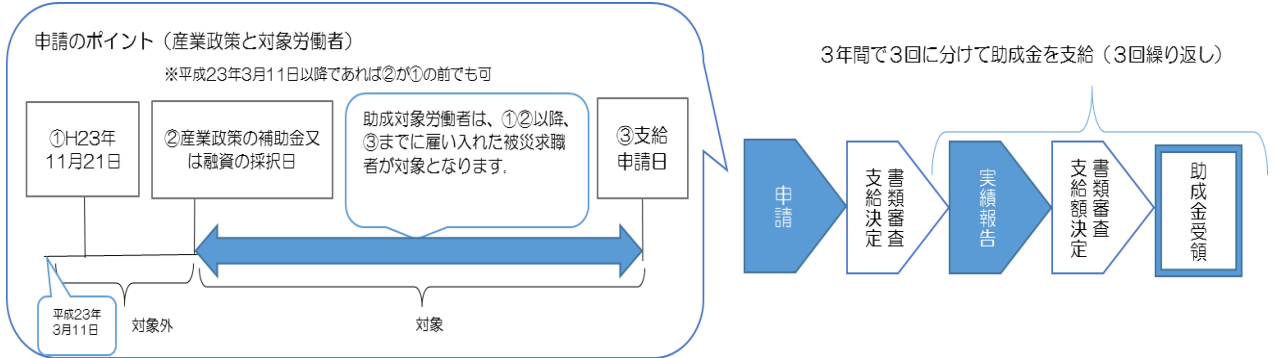
以上、5つの委託事業を担当しています。実際の業務は、委託先企業との連絡調整、進捗、実績の確認が主となっています。よって、普段の仕事の中で、被災者の方とお会いする機会は少ないのですが、実施している事業の現地視察の際には、被災された方々とお話することができました。皆さんが気持ちよく働ける環境作りをしていかなければならない、と強く感じたところです。

#### (2) 沓澤の担当する業務

沓澤の担当する事業復興型雇用創出事業は、被災地域で安定的な雇用を創出し、地域の中核となる産業や経済の活性化事業に資することを目的に、産業政策と一体となって雇用面から支援を行うため、被災求職者の雇入れ費用を支給するものです。福島県では地域により助成金の支給額上限に差がつけられたものの、引き続き県内全域を対象に「ふくしま産業復興雇用支援助成金」として実施しています。

県が指定した補助金又は融資の採択を受けて被災求職者を雇い入れた事業所に、労働者1人当たり最大225万円を3年間に分けて支給するもので、商工労働部内で行っている中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業、ふくしま産業復興企業立地補助金、ふくしま産業育成資金などを

はじめ、医療福祉・農林水産等、庁内の様々な事業と連携して業務を進めています。



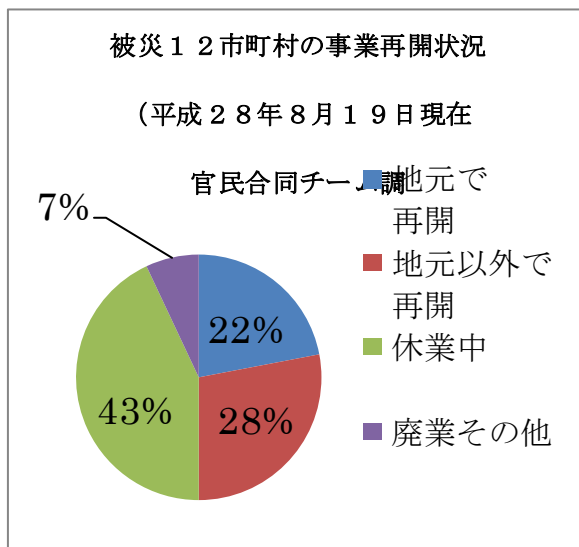
(雇用助成金制度の概要)

平成 23 年度から 27 年度までの 5 年間で延べ約 5,800 事業所、約 27,000 人、約 529 億円の支給決定を行っております。一部業務の民間委託をしています。今年度も延べ約 5,500 件の支出予定であり、委託先と調整し効率化を図りつつ大量の審査・支払事務をこなしております。

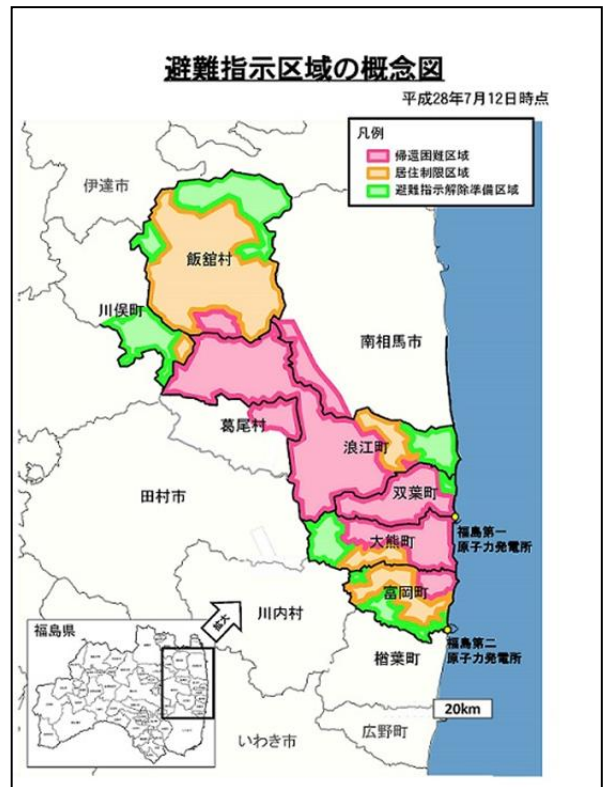
申請された書類については、産業政策の採択等を受けた事業所において雇い入れた被災求職者であるか、労働法令を遵守しているかなどを細かく審査し、支給決定や支払いを行っています。年間を通じて制度に関する問い合わせも多く、また、申請受付を分担してもらっている各地方振興局や、同じ事業を行っている岩手・宮城の両県とも連絡調整をしながら、業務を進めています。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

現地視察や事業所調査等で浜通りの復興の動き等に接する機会がたびたびあり、そのご苦労とご努力に改めて深く感じるところがあります。そのうちから 3 つをご紹介します。



<出典>ふくしま復興ステーション (復興情報ポータルサイト)





南相馬市の社会福祉施設では、人手不足が深刻であり約6割施設稼働がやっつとで、地域福祉の核を担う施設として、将来を大変危惧しているとの話でした。人を育てることにこそ、県や国は力を注いでほしい。まさに「米百俵の精神」が求められていると思うと切々と訴えられました。

震災後に新たに立ち上げ地域の中核となり、さらに発展を目指す事例もあります。川内村の植物工場は、全村避難から帰村への流れの中、民間の助成制度を元に、復興のシンボル事業として平成25年に操業を開始し、第3次「植物工場ブーム」における野菜安定供給の全国のリーダーとなるべく努力を続けているとのことでした。

いわき市の震災の年にスタートした駅前復興飲食店街では、まちづくりベンチャー企業を母体に、震災後に炊き出しから地域に入り新たなしくみづくりに苦心。その体験を踏まえ、NPO法人まで設立し、様々なひとづくり・ことづくりを仕掛け、多くの人が地域に関われるきっかけ作りも行っているなどの貴重なお話も聞きました。

沓澤：＜派遣2年目の感想等＞福島市内での日々・体験等

前回の報告以降、秋から冬・初春までの福島市内での体験やお気に入りスポットなどについて触れてみます。

福島の秋はどこも紅葉が美しく、自転車通勤がてら鮮やかな街路樹をたっぷり楽しみました。11月に入ると吾妻小富士は白く染まり、手袋やマフラーが欠かせない季節となります。商工労働総室内の職員の方々と奥会津まで足を伸ばし温泉一泊旅行を楽しみ交流を深めましたが、途中の峠のトンネルを抜けるとそこはもうすっかり雪国で、雪がしんと降っていて、改めて福島県の広さを実感しました。市内にもすぐ行ける温泉が多いのですが、中でも安達太良山系の野地温泉は我が家のお気に入りです、雪を見ながらの露天風呂は最高です。

11月末の初雪のあとは年末近くに1日だけ雪が降りましたが、暖冬の影響で山々の雪があまり増えないまま、年越しを迎えました。1月の「大寒」前後に数度の大雪があり、街には雪がやや豊富となりましたが、毎度、幹線道路等の除雪の手早さには感心させられました。

また、冬の星座も楽しみのひとつで、市内のプラネタリウムで教わった冬のダイヤモンドや、オリオン座、すばる星団などを、帰宅途中にしばし見上げるのが日課でした。

今年は雪がとてもしなかつたとはいえ、埼玉ではなかなか味わえない白い季節を体験し、色とりどりの花見山辺りの風景に、春の訪れの楽しさを感じることができました。



(福島駅前のモニュメント)

福島県派遣2年目となり、地元の知り合いも増えて、地域への愛着が一段と高まっています。市内大町生まれである古関裕而の福島駅前のモニュメントでは、今年若い人に絶大な人気のアニメ映画と同名の名曲「君の名は」が毎夜8時に流れます。信夫山麓の古関記念館も、我が家世代に

はたまらない癒しのスポットです。

また、市内のあづま総合運動公園内で開催された「ロックコープス」に昨年に続き参加できましたが、そのボランティアで体験した写真修復作業との関連で、これも市内で行われた国立国会図書館主催の「震災アーカイブ」ワークショップを6月に体験しました。神戸や新潟等、全国からの参加があり、震災の記録・証言を将来に活かすための息の長い収集・整理活動を垣間見るよい機会となりました。

松澤：＜派遣半年の感想等＞着実な復興と生じ始めた「ギャップ」

福島市内では除染作業や震災の影響は落ち着きつつあり、日常生活において震災・原発の影響を感じることはほとんどありません。しかし、少し郊外へ離れると仮設住宅や除染した土を詰めたフレコンバックなど、原子力災害の影響が色濃く残っています。仮設住宅から復興住宅に移る住民がいることや、避難解除となり帰還が始まることなど、前向きなニュースがある一方で、入居者が少なくなった点在している仮設住宅をどのように管理するのか、といった新たな問題も発生しています。

雇用の面では、浜通りの雇用環境が特に改善されていません。避難解除となり住民の方が戻ろうにも、買い物をするお店がない、店を出そうにも労働者が集まらない、という現状です。福島市や郡山市の平均時給よりも遙かに高い時給となっているにも関わらず、被雇用者が集まらない、深刻な問題を抱えています。県としても浜通りの雇用情勢には意識を向けていますが、働き手がいらないといった根本的な問題は一朝一夕で解決はできません。福島県の今を正しく理解してもらえよう、少しずつ努力していくことが必要であると感じました。

プライベートでは、同じく福島県に派遣されている職員とともに、県内各地を見て回っています。相馬野馬追や福島わらじ祭りなど、地域のお祭りに参加することで、福島県の「今」を感じるようにしています。私たちが発信塔となって、福島県の良さを内外に広めていきたいと思います。



(相馬野馬追・お行列)